

現代日本を支えるつくり手たち

日本は、長寿の国として知られています。平均寿命は世界でもトップクラスであり、日本製品もまた、頑丈な自動車エンジンから釘を使わない建築技術に至るまで、その耐久性の高さで広く評価されています。こうした品質は、徹底した作り込みと、精密さへの強いこだわりによって支えられてきました。

また日本には、50年、100年、さらには200年を超えて続く企業が驚くほど多く存在します。その背景には、家族を中心とした事業承継や、「売り手よし、買い手よし、世間よし」という三方よしの考え方があります。

CSR、すなわち企業の社会的責任という言葉が世界的に広まるはるか以前から、日本企業はすでに長期的な視点で事業を営んできました。

ここでは、長く続く企業のリーダーたちの考えをご紹介します。

日本の企業遺産を数字で見る

日本には、創業100年以上の企業が46,708社あります。そのうち、創業200年以上の企業は1,836社、300年以上の企業は905社、500年以上の企業は47社、1,000年以上の企業は11社です。

出典：帝国データバンク（2025年12月）

株式会社 田邊研電 創業61年

「私たちの専門性の原点は、父・田邊駿一にあります。1984年には、プラチナ・ギルド・インターナショナルより招かれ、特別講演を行いました。父が長年にわたり蓄積してきた知識は、現在の当社のプラチナ鑄造製品にも受け継がれています」と、代表の田邊晴己氏は語ります。

株式会社ノダキ 創業119年

「世代を超えて、当社は品質を守り続けてきました。私は株式会社ノダキの6代目社長です。事業上のあらゆる判断において、お客様と従業員を第一に考える必要があると学んできました」と、代表の野田典嗣氏は語ります。

マルコメ株式会社 創業172年

「長く続くファミリービジネスとして、私たちは長期的な視点を持つことに慣れてしています。時には数十年にわたるプロジェクトに取り組むこともあります。より持続可能な食の未来に向けて取り組むことは、私たちの責任であると考えています」と、代表の青木時男氏は語ります。

株式会社 崎陽軒 創業118年

「初代社長は、横浜を代表する名物土産としてシウマイを生み出しました。それから98年にわたり、シウマイは旅のお供として、また花見の季節に楽しむものとして、人々のさまざまな場面に寄り添ってきました」と、代表取締役社長の野並晃氏は語ります。

受け継がれる技術を形に

60年以上にわたる経験を礎に、田邊研電は今もその存在感を示し続けています



Shunichi Tanabe
Founder
Tanabe Kenden Co., Ltd.

Harumi Tanabe
President

田邊研電の歩みは、1965年、東京西部の郊外に位置する世田谷の小さな工房から始まりました。

田邊研電の創業者である田邊駿一は、卓越した技術力を持つエンジニアでした。独自のアイデアを生み出し、それを実際の製品として形にする力を持ち、その才能は、鑄造や研磨など、ジュエリー製造工程で使用される機械の開発へとつながっていきました。

彼は決して現状に満足することなく、常にさらなる品質向上を追求し続けました。当時の代表作であるプラチナ鑄造機をはじめ、田邊研電の多くの機械は、現在も世界各地のジュエリー工房で使われています。

同社の理念は、ひとつのシンプルな言葉から始まりました。「高品質な製品をつくれれば、世界中で受け入れられる」。この前向きな姿勢と、品質に対する揺るぎない信念は、現在も大切に受け継がれています。創業者・田邊駿一の娘であり、田邊研電の代表を務める田邊晴己は、世界のジュエリー業界において、品質にこだわるお客様に向けた機械づくりを担っています。

「創業メンバーのものづくりへの姿勢と技術は、現代においてもなお大きな意味を持っています。高品質な製品を販売するだけでなく、丁寧な技術サポートを通じて信頼を築くことは、最高の品質を追求するお客様にとって欠かせないものです」と田邊は語ります。

「時代とともに技術は進化してきましたが、お客様との信頼関係を大切にする姿勢は、これからも変わることはありません」と、田邊は続けます。

